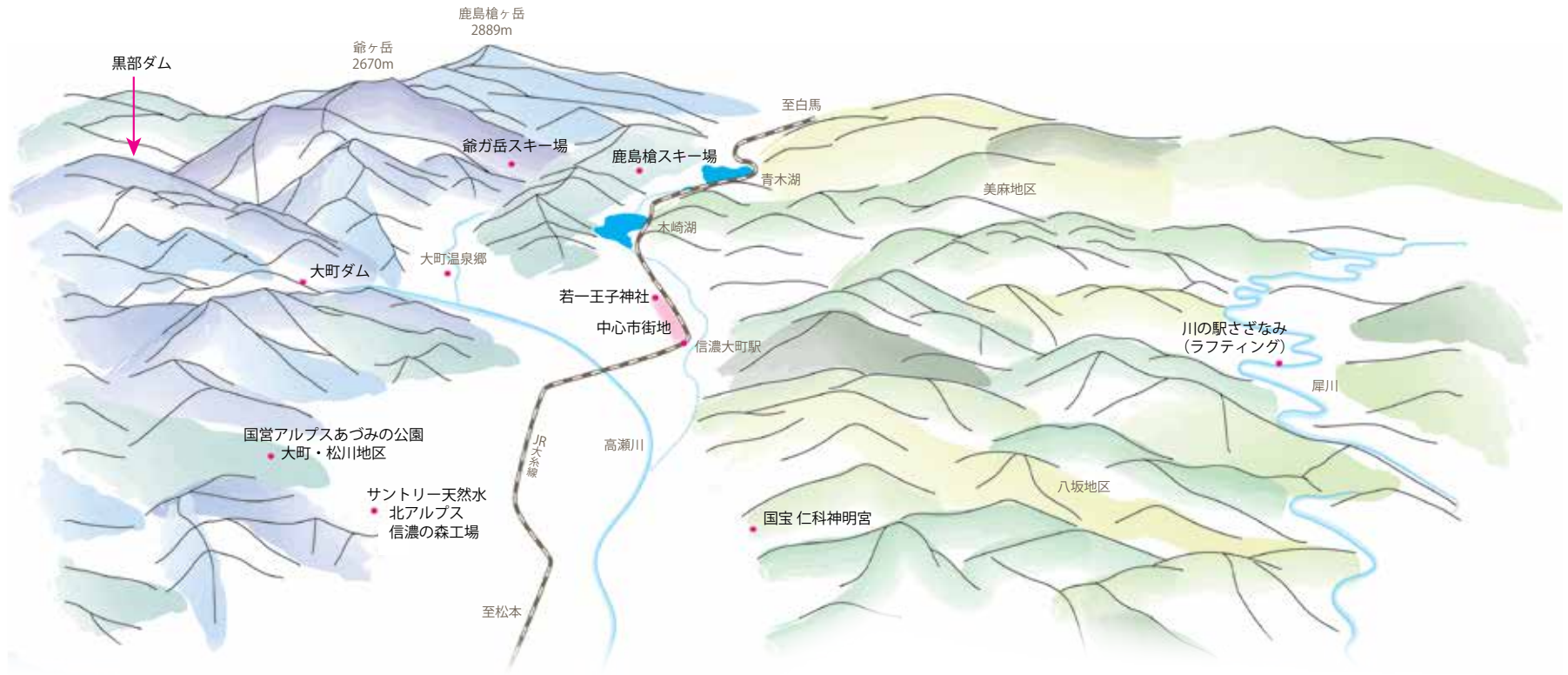




まちをまるごと教材に

NPO法人ぐるったネットワーク大町の 教育プログラム

Home Field

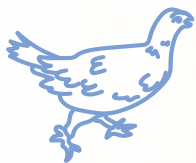


Shinano Omachi

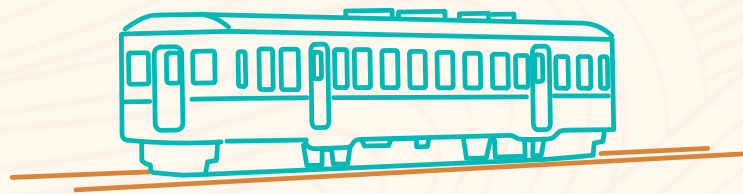
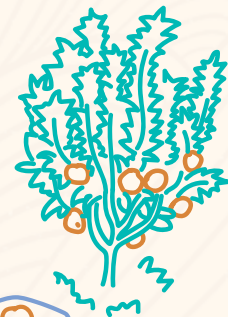


長野県大町市は、標高3,000m級の山々が連なる北アルプスの麓に位置し、豊かな森と3つの湖(青木湖・中綱湖・木崎湖)があります。

古くは日本海から内陸に塩を運ぶ塩の道の宿場町として栄え、近代以降は、豊富な水資源を活かした産業に支えられてきました。



ぐるったネットワーク大町では、豊かな自然環境とそれと共に歩んできた歴史文化をまるごと教材に、プログラムをつくっています。



地域の資源とつながりを活かして
豊かな未来をデザインする
まちづくりのプラットフォームを目指します。

本物に触れる
五感を使う
人と出会う…

リアルな体験を
大切にします

好奇心
探究心
チャレンジ精神…

主体的な挑戦を
応援します

学校×地域
行政×市民
都市×地方…

つながる場を
つくります

History



2007年

大町温泉郷周辺に拠点を置く市民活動のネットワークとして、「大町温泉郷ぐるったネットワーク」が始動。協働でホテルの里の保全や野沢菜漬けのイベントなどを始める。



2010年

「ぐるったネットワーク大町」に名称を変更し、NPO法人化。サイクリングイベントでの地元食材のおもてなしを始める。



2014年

信濃大町食と観光研究会が「北アルプス国際芸術祭」の前身イベントである「信濃大町2014-食とアートの廻廊-」を開催。事務局を担う。



“ぐるった”とは「周辺」という方言ですが、ぐるっとつなぐという意味も込められています。



2016年

地元の子どもの地域学習サポートを始める。「大町グラウンドワークわっぱらんの会」と合併、わっぱらんどを活用した自然体験にも注力。



2017年

初回の「北アルプス国際芸術祭」にて地元の公募アーティスト「YAMANBAガールズ」が郷土食のパフォーマンスを行い、事務局を担う。



2021年

地元向けに開発してきた体験活動を教育旅行に活用するため、「合同会社北アルプス学びと遊びの旅行社」を設立。

Services

自然体験プログラム

水源を守る森づくり～100年先の未来を描く～

日本の国土の2/3、長野県の8割を占める森林は、木材の生産だけではなく、きれいな水を作り蓄え、土砂崩れを防ぎ、多様な生き物のすみかとなるなど、たくさんの役割を果たしています。

そんな「豊かな森」をつくる仕事を林業者から学び、天然資源の持続可能な活用や、自分自身の「つかう責任」について学びを深めます。豊かな自然を求めて移住して来た人々も山仕事の担い手となっており、キャリア教育としてもおススメです。

北アルプスの山麓は急傾斜で積雪が多いため、建材を量産するスギやヒノキの人工林には適していません。その代わりに、様々な樹種や森林タイプが見られる生物多様性の高い森林が広がり、北アルプスブランドの湧水を生み出す水源涵養林となっています。森の中を歩き、伐倒を見学したり実際に枝を切ったりして、自分たちの生活と森林のつながりを考え、また交流を通して山仕事についての理解を深めます。



プログラム例

所要時間：3時間

- ・ 林業者と一緒に森林を観察し、森の現状や課題を学ぶ
- ・ 伐採木を選び、伐倒作業を見学する
- ・ 伐った木の年輪を数え、その木の一生を推測する
- ・ 丸太を切る造材や、機械を使ったプロの仕事を見学
- ・ 枝払いや丸太切り体験で、クラフト用の材を切り出す

オプション

事前学習(リモート講座、調べ学習)、
製材所・木工作家のアトリエ見学、クラフト工作など

Voice

森林体験はSTEAM教育を有機的に学べると実感しました。それは、森林そのものが科学の場であり、携わる木こりの技術に感動し、森林を工業生産に変える工学を知り、森林を表現する作品から芸術を感じ、自然環境を数学の力で考えることができるからです。

法政大学生命科学部 辻本 昭彦 教授

竹を伐って食べて考える

～竹の活用と地域づくり～

竹は成長が速く、軽くて丈夫で加工しやすいため、古来から生活の中で様々な形で使われてきました。しかし、竹製品がプラスチックや金属に置き換って竹の利用が減少したことで、竹が増えすぎて森や畑を侵食したり、密生しすぎて荒れた竹林が全国各地で問題になっています。

竹林は手入れをすることで様々な生き物のすみかとなり、筍が採れるようになります。竹を伐って里山整備をする地域貢献や、淡竹(はちく)汁の試食を通して、竹の利活用について考えます。



プログラム例

所要時間：2～3時間

- ・「竹と私たちの暮らし」のお話
- ・竹林整備 ノコギリで竹を伐って運び、枝を落とします。
- ・淡竹汁の試食 地域の伝統食であるサバ缶の入った淡竹汁を味わいます。

オプション 希望に応じて、竹細工の実演や竹クラフトも選べます。



釣りや里山の暮らし体験

日本一長い信濃川の最上流部にあたる大町市。北アルプスの雪解け水が流れる溪流に棲むイワナやヤマメを養殖している漁協の釣り堀で魚を釣り、自分の手で捌き、炭火を起こして塩焼きにします。

また、この地域の伝統的な窯「ぬかくど」を使って地元で作られたお米でご飯を炊き、信州味噌を食べ比べます。自然と人の生活が隣り合う里山の暮らしや知恵を体験し、味わうことで、今と昔、都会と田舎の暮らしについて考えます。

プログラム例

所要時間：3時間

- ・この地域の魚のお話
- ・釣り体験
- ・炭起こし
- ・魚の下ごしらえ
- ・ぬかくど体験
- ・みんなでご飯

Voice

釣り目的で行きましたが、岩魚の生態や生き物が住める環境作りを考える機会になりました。淡竹採りでは息子が竹林整備や林業に興味を持つきっかけに。

ぐるったのイベントは楽しみながら学べて、友達も増えるので毎回参加したいです。

保護者 西井 弥生 さん



冬のプログラム

ゲームで学ぼう 冬を生きる動物の知恵

雪があるからこそ、夏とは全く違う森の中。

「キツネやタヌキはどう歩くの？リスはどうやって食べ物を蓄えるの？
どうしてウサギは雪の上を歩けるの？」

雪の森をガイドと共に歩きながら、野生生物のフィールドサインを探し、冬を生きる動物たちの知恵を学びます。(フィールドサインは天候や雪質等により見つからないこともあります。)

その後、動物の生態に因んだ種目を取り入れた「雪上運動会」にチャレンジ！雪の楽しさや厳しさを体感しながら、冬の自然についての理解を深めます。また、近年は降雪量が激減して、30年前には見られなかったシカやイノシシが現れるようになり、ライチョウは生息域の減少で絶滅が心配されているなど、気候変動の影響への気づきを促します。



プログラム例 所要時間：2～3時間

- ・ 準備体操
- ・ 冬の生き物たちの説明
- ・ 動物のフィールドサインを探そう
- ・ 雪上運動会に挑戦！

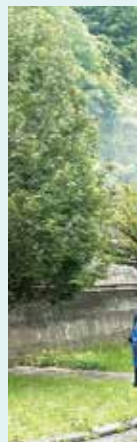
オーダーメイド プログラム

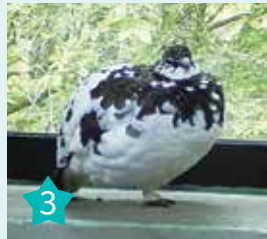
この他にも、小中学生や高校生、大人を対象に、様々な野外体験を行っています。時期／人数／学年／目的・テーマ／予算に応じて、プログラムをアレンジして提案します。

お気軽にご相談ください。

過去の主な実績

- 1 水力発電から考える未来のエネルギー (4～11月、3時間)
- 2 わっぱらんど自然観察 (5～11月、1～2時間)
- 3 ライチョウの餌づくり (5月中旬、3時間)
- 4 夜の昆虫探検隊 (6～9月、1時間)
- 5 けもの道を歩こう (6～9月、1～2時間)
- 6 鹿島川で川遊び・魚のつかみ取り (7～8月、3時間)
- 7 早春の里山でメープルウォーターを味わおう (3月上旬、1～2時間)





商店街をそのまま教材に

大町の商店街は、鎌倉～室町時代に基礎ができ、江戸時代には日本海と内陸を結ぶ「塩の道」の宿場町として栄えました。近代になると、豊かな水を活かした水力発電やアルミニウム工場などができ、第二次世界大戦後は黒部ダム建設の拠点として好景気が続きました。

今ではすっかり人通りの少なくなった商店街ですが、それぞれの時代の面影があちこちに残っています。また、賑わいを取り戻すための取り組みも見ることができます。

この商店街を、探究学習のフィールドに活用しませんか。よその町を観察することで、自分のまちを相対的に見る目が養われ、まちへの理解と愛着が深まることでしょう。

実績

- 2015～2018年 地元中学生が案内するまち歩きをコーディネート
2024年～ 班ごとにポイントをめぐり、クイズを解いたりまちの人に話を聞いたりするクイズラリーを実施



キャリアについて考える

地元の子どもたちに、様々な仕事を通してまちを支えているカッコイイ大人たちに出会ってほしい。そんな思いから始まったぐるったネットワークのキャリア教育。仕事場を見学して話を聞くこともあれば、10人の多彩な分野の職業人に会場に来てもらい、分科会形式で話をしてもらうこともあります。

自然豊かな大町市は、農林業や水力発電、飲料水の工場など、都市部の暮らしを支える生産現場でもあり、最近では県外からの希望に合わせたコーディネートも行っています。自分の生き方、そして自分たちのまちの未来を考えるきっかけ作りにおすすめです。



Voice

主にキャリア学習と総合的な学習の時間で、地域と学校をつないでいただきました。私たち教員では知り得ない地域の教育資源となることができ、生徒たちの深い学びが実現しました。

大町市立大町中学校
塚田 秀 校長

アントレプレナーシップを育む

変化し続ける今の時代、課題を見つけ、解決に向けてチャレンジし、新しい価値を生み出していく能力が求められています。ぐるったネットワークでは2021年より、地元の中学生・高校生にアントレプレナーシップを身に付けてもらいたいと、ワークショップや起業体験などいくつかのプロジェクトをサポートしてきました。

教育旅行に取り入れたいというご希望があればご相談ください。例えば、訪問先でアンケートをとって商品開発をしてみる、あるいは自分たちのまちの特産品に付加価値をつけて訪問先で販売してみるなど、創造的なプログラムづくりに伴走します。



インターンシップの受入れ

ぐるったネットワークでは、子どもたち向けの野外体験イベント、郷土食の学び合いと発信、パンフレットなど地域情報のデザインなど、まちづくりに関わる様々なプロジェクトを行っています。興味のある方は、インターン生としてプロジェクトに参加してみるのもおすすめです。

小さい組織なので、プロジェクト全体が見えやすくやりがいがある反面、手厚い研修制度などはありません。自分から行動できる、意欲のある方を歓迎します。



実績

2024年
香港理工大学からのインターン生2名を2か月間受入れ

2023年～
大町市立大町中学校の職場体験受入れ

Voice

通信制高校在学中、余暇時間を利用して商店街の空き家を活用したハロウィンイベントを主催しました。学校教育では得られない学びが自信に繋がり、それを推薦入試でアピールし大学へ進学することができました。

帝京大学経済学部2年
太田 あかりさん

教科横断の学び

「STEAM教育」に向けて

学校の外に出て行う体験や見学は、普段の教科学習で教わった知識を活用して、実社会での課題の発見・解決にチャレンジする絶好の機会です。受入れ側でも学年ごとの教科の学習内容を意識しつつ、教科横断的な探究内容になるようにプログラムを組み立てます。

*STEAM教育は、科学、技術、工学、芸術、数学の分野を横断的に学ぶ教育です。

Voice

インターンシップでは、子どもたちの夏休み活動や林業者・作家との協力、広報出版物の制作を通じて、多様な地域活動を体験しました。そのおかげで、未知の世界から素晴らしい学びを得ることができました。

香港理工大学デザイン学部 4年
Duey Tam さん

ボランティア

ぐるったの発足のきっかけは、水辺公園「わっぱらんど」の整備活動から。「自分たちのまちは自分たちでつくる」という思いが原点にあります。

地域の人たちに移住してきた人、小学生から大学生までも、それぞれができることを持ち寄った、自発的な活動の場がボランティア。例えば、里山や竹林の整備、自転車イベントの食品提供、子どもの体験補助など、力を借りたい場面はいろいろあります。

自己有用感を高められるのはもちろん、異世代や地域内外の人たちと交流したり、地域の魅力や課題を知ったりと、学べることもたくさん！



食から見える“まち”の物語

そば、おやき、川魚、味噌、漬物、ジビエ…。昔からこの地域で食べられてきたものは、風土や暮らしぶりをよく表しているだけでなく、自然と共に暮らしてきた知恵が詰まっています。

凍り餅体験、おやきづくり、郷土料理体験など、地元のお母さん達と交流しながら大町の食文化を体験してみませんか。田んぼや畑、果樹園での農業体験や、養魚場見学などと組み合わせれば、より深い学びが得られます。

人数規模や所要時間、実施時期により、できることが限られます。まずはご相談ください。

プログラム内容

- 凍り餅体験 (1人1個)
🕒 1~1.5時間
👥 20~100人
 - おやき体験 (1人1個)
🕒 2時間
👥 10~20人
 - 郷土料理体験 (アウトドアランチ)
🕒 2~2.5時間
👥 10~100人
- メニュー 魚の塩焼き、かまどご飯、季節の味噌汁、漬物



Our Strength

ネットワーク

- ★ 地元の様々な企業・団体とのネットワーク
- ★ 地元の学校との連携
地元小中学校のキャリア教育・総合学習支援
- ★ まちづくり活動とのリンク
地域課題を学びの素材として活用

人材

- ★ 里山の知恵を伝える地域の人たち
- ★ ESD・キャリア教育・環境教育の経験を積んだ
スタッフ、教員免許を持つスタッフも従事

実績

- ★ 地元小中学校の学習支援
 - 小学校の野外体験受入れ(2007年～)
 - 中学校の総合学習支援(2015年～)
- ★ 食の提供実績
 - 北アルプス国際芸術祭での公式レストラン運営(2021年～)
 - 自転車イベントでの地元食材のおもてなし(2010年～)
- ★ 豊富な地域資源情報の蓄積
 - 手書きの地域資源マップを300号制作(2011～2021年)



地域の達人たち



橋本 拓
(山仕事創造舎)

山を守り自然と共生した森づくりを実践するきこり集団の代表、かつミュージシャン。会社には様々な経歴を持つ他県からの若い移住者が多いので、森林体験×キャリアのプログラムはおすすめです。



朝重 孝治
(千年の森自然学校)

市立大町山岳博物館と共にカモシカ調査を続けてきた森の達人。30年前から、電気も水道もない300haの広大な森を舞台に、自然と人との関係を問い直すような本気の自然学校を運営しています。



小田 美恵
(北アルプスオーガニックプロジェクト)

信州らしい持続可能な循環型社会にむけた活動を展開する北アルプスオーガニックプロジェクトの代表。自ら育てた小麦や野菜を使ったこだわりレストラン健康楽食Zenを夫婦で営んでいます。



丸山 令江子
(YAMANBA ガールズ)

地元の料理上手なお母さん達のグループ、「YAMANBAガールズ」の代表。地元の話話を語り継ぐ「もんべの会」の代表でもあり、郷土食と民話で土地の文化や暮らしの知恵を伝えます。

ガイド・コーディネーター



梅田 敏男
(ネイチャーガイド)

古地図散歩・湖上ピクニック・雪原のナイトハイク・湖上星空ガイド・移住体験ツアーなど、ユニークなテーマツアーが得意。軽妙な語り口とサービス精神にファンが多い、スーパーガイドです。



桜井 香織
(通訳ガイド)

カナダ・オーストラリア等での生活や、インバウンド向け観光業での長年の経験を活かして、訪れる人が地域を深く知るための架け橋となる英語ガイド。美しい絵を描くアーティストでもあります。



鈴木 幸佳
(コーディネーター)

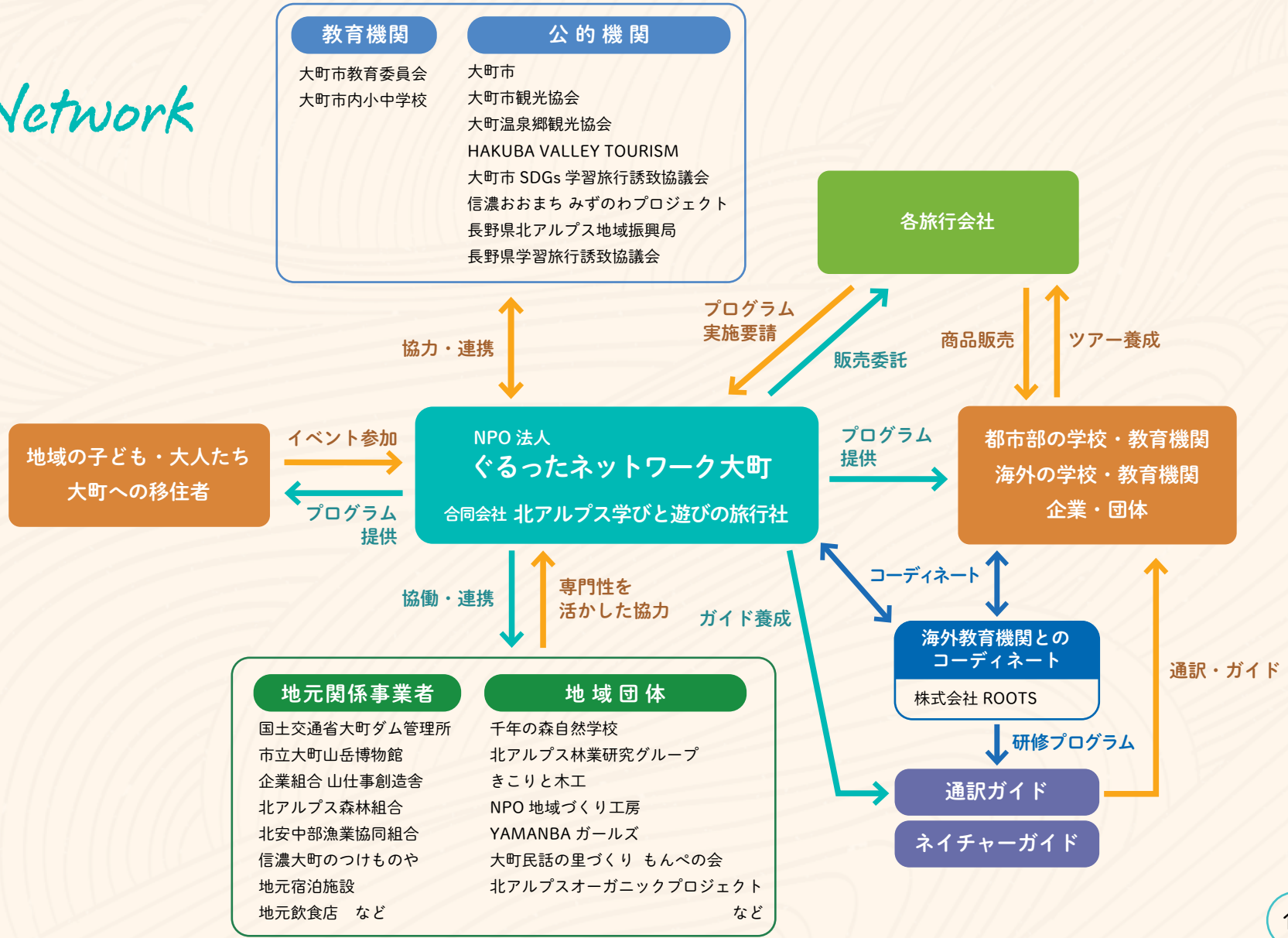
ぐるったネットワーク大町事務局長。市役所勤務時代に得た地域資源の知識と地元ネットワークが強みです。3人の子どもを育てながら、地元小中学校の総合学習をサポートしてきました。



小林 芽里
(コーディネーター)

前職のNPO支援センターでは多文化共生や子ども支援、サービスラーニングに関わってきました。青年海外協力隊、環境ESDの研究員の経験も活かして、グローバルに課題をつなぎます。

Network





地域内のつながりから 世界とのつながり 未来へのつながりへ



「北アルプス学びと遊びの旅社」は、NPO法人ぐるったネットワーク大町の観光部門を切り分けて2021年10月に設立した合同会社です。NPOの活動の中で蓄積したネットワークや地域情報、子どもたちの学び場づくりで得たノウハウを活かして、学校と現地をつなぎます。

豊かな自然体験が、「持続可能な未来」の希求へ、ここならではの歴史文化を知ることが、「多様性の尊重」へ、この地に根差した人々との交流が、「課題発見」への一歩となれば。

そんな思いを込めて、好奇心と遊び心を満たすツアーをつくっています。

◀ 旅行の手配ができる範囲

大町市とその隣接自治体(緑色の部分)になります。

長野県知事登録旅行業 地域-664号
合同会社 北アルプス学びと遊びの旅社
〒398-0002 長野県大町市大町1559番地4
TEL 0261-85-0560 FAX 0261-85-0557
<http://www.nal-tour.jp>





受入れ実績-1

「豊かな森が水を育む」北アルプス体験

プログラム内容

広域通信制高校から、2泊3日の職業体験学習として希望者20人を受け入れました。「水と森」をテーマに、水工場、水源の森づくりと木材活用、黒部ダムを見学。参加者同士の交流、林業者や木工作家との交流も入れたプログラムです。

1日目	午後 「美味しい水はどこから？」 サントリー-信濃の森工場見学 夕方 「美味しい水ってどんな水？」 水の飲み比べワークショップ
2日目	午前 「豊かな森をつくる仕事」 間伐体験で水源林のしくみを学ぶ 昼食 「間伐材を使ってみよう」 薪で窯焼きピザ体験&きこりとの交流 午後 「木を活かす仕事」 製材体験&木工作家のアトリエ見学
3日目	午前 「水から生まれるエネルギー」 黒部ダム見学 午後 「ふりかえり」 気づきを共有しよう



受入れ実績-2 「Ongoing Community Design」

海外の大学3年生の5泊6日のスタディツアーとして、31人を受け入れました。

「ソーシャルデザイン」をテーマに、まちなか探索、農業の現場見学&林業体験、郷土料理やホームステイで地元の人との交流、自然公園の整備や芸術祭の準備などの社会貢献、市長との懇談を盛り込みました。



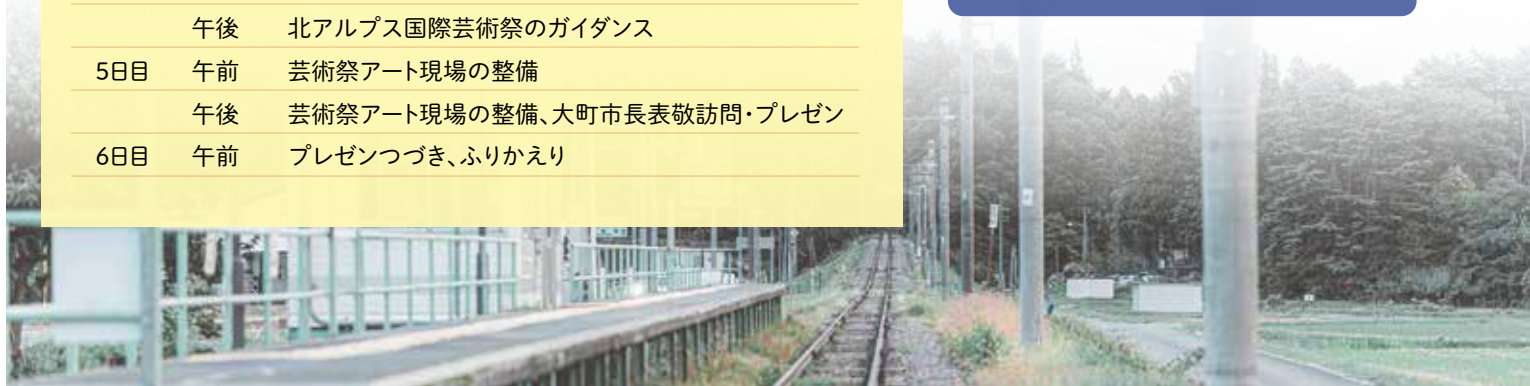
プログラム内容

1日目	午後	オリエンテーション、山岳博物館・塩の道ちようじや見学
	夜	大町まちなか探索
2日目	午前	自然公園で里山整備作業、サントリー水工場見学
	午後	お米農家の見学、宮司さんのお話
	夜	郷土料理体験&交流
3日目	午前	森林体験
	午後	ホームステイ(2~5人ずつ12家庭へ)
4日目	午前	ホームステイ
	午後	北アルプス国際芸術祭のガイダンス
5日目	午前	芸術祭アート現場の整備
	午後	芸術祭アート現場の整備、大町市長表敬訪問・プレゼン
6日目	午前	プレゼンつづき、ふりかえり

Voice

雄大な自然、四季折々の美しさも勿論ですが、香港の大学生らに特に印象的だったのは、大町に住む人達と、その暮らしや生き方。世界各地の教育機関が文化・自然・生き方をまるごと味わえる、大町というコミュニティに注目しています。

(株)ROOTS 代表取締役 中山 慶さん





Voice

黒部ダムの破碎帯の水の甘さに感動し、蛇口から天然水が出る大町を知り、「水」がテーマのツアーに参加。二拠点生活を経て北アルプスを臨む家に引越し、蒼空に雪山、里山と碧い水、季節を感じながら生活できる喜びと共に暮らしています。

参加者 西岡 愛さん

受入れ実績-3

信濃大町 魅力発見ツアー

大町市に移住を検討している方向けのツアー。北アルプスの景観や湧水などの魅力を体験するだけでなく、暮らしの様子や仕事の現場を見学したり、先輩移住者の方々と移住してよかったこと・苦労したことなど率直な意見交換をしたり、1泊2日に情報収集と交流をギュッと濃縮しています。

2024年度の実績

6月上旬

「住み家めぐりと食体験」

空き家や土地物件、滞在型農園やシェアハウス、古民家リノベなど、様々な「住」の選択肢を見学。お昼はイワナの炭火焼と伝統窯で炊いたご飯で三種の味噌を味わいました。

8月下旬

「移住×農林業」

林業、無農薬・無施肥の米農家、イチゴやリンゴ農園、野菜農家、大規模農業法人を見学し、農林業への思いや可能性について伺いました。お昼は地元野菜のピザを焼きました。

1月下旬

「HAKUBA VALLEYで遊び!働き!暮らせる街」

白馬五竜でレストランやリフト、パトロールやインストラクターの職場を見学。2日目は大町の二拠点住宅や公営住宅を見学し、ショッピングセンターやまちの様子も見ました。



© Kiyoshi Kashiwabara



特定非営利活動法人ぐるったネットワーク大町
長野県大町市大町 1559 番地 4
TEL 0261-85-0556 FAX 0261-85-0557
info@grutta.net <http://www.grutta.net/>

制作: Duey Tam Creative Studio
2025年3月発行



独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金の
助成を受けて制作しました